

平成26年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果(実現度調査)の詳細については、本校ホームページ[http://rifu-h.myswan.ne.jp/evaluated.html]をご覧ください。

実施日：平成26年12月1日(月)

回収日：平成26年12月16日(火)

対象：生徒(回答数822名 回答率99.5%)、保護者(回答数814名 回答率98.5%)、教職員(68名)

「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階での評価

実現度調査の分析と改善策【全学年共通】

アイコン表記のルール

80%以上

60~79%

40~59%

40%未満

10%以上

0~9%

0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 13 rows of survey results and improvement strategies, each with sub-rows for 生徒, 保護者, and 教職員.

| 実現度調査 質問項目                                 | 良好ととらえている割合<br>「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比       | 分析   | 改善策  |
|--|------------------------------------|------------|--|--|
| ⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。              | 生徒                                 | 75% → 4%   | 肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者72.6%、生徒75.1%であるのに対して、教職員が32.3%しかない。家庭学習時間は微増していることもあり、これでも昨年度よりは若干改善しているのだが、生徒・保護者と教職員の差は依然として大きく、生徒とそれを見ている保護者は量的な観点から勉強に取り組んでいると考えるが、提出された課題の質的な観点で見ている教職員は否定的な回答となったと思われる。「自主・自立的な学習態度」に到達していないという考えの現れであろう。                                  | 「予習→授業→復習」という学習サイクルを体験させ、その効果を実感させるため、1年次の最初の授業において、各教科で学習オリエンテーションを実施し、一定の効果をおいている。しかし、あくまで一過性のもので、それを継続させるために週末課題だけでなく、宿題や課題、小テストを毎回の授業に組み込んだ形にし、学習習慣の確立に努めなければならない。宿題や課題も、量的なものよりも考える場を必要とする質的に充実した内容となるような工夫をしていく必要がある。  |
|  | 保護者                                | 73% → 6%   |  |  |
|  | 教職員                                | 32% → 6%   |  |  |
| ⑮ 一般受験に対応できる学力を養成している。                     | 生徒                                 | 74% → 7%   | 肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者65.8%、生徒73.7%であるのに対して、教職員が14.7%と教職員の大多数が否定的な回答をした。全質問中で最も生徒・保護者と教職員の差が大きかった。この意識のずれは、教員が一般受験に向けて身につけさせたいレベルの学力と生徒の実際の学力および学習への取り組み状況に大きな差があることを示している。また、推薦・AO入試利用者が増加し、一般受験をする生徒が極端に少ないことから、実際に指導に関わっている生徒・教員がごく一部しかないことも影響していると考えられる。            | 授業では基礎基本の徹底を図り、課題や小テストなどをうまく組み合わせ学習内容を定着させる。成績不振者・成績下位者の学力の底上げ、理解の徹底を図る取り組みとして、従来通りの審査前学習会の他に長期休業中の講習会も実施できないか検討していきたい。<br>大学全入時代に入ると、一般受験以外の受験方法も増えたため、志望校を安易に変更する生徒も目立ち始めた。進路指導部と協力し、1・2年次からの啓蒙的な進路指導も実施していく。  |
|  | 保護者                                | 66% → 4%   |  |  |
|  | 教職員                                | 15% ↓ -10% |  |  |
| ⑯ 総合的な学習の時間と連動させた効果的な進路学習を実施している。          | 生徒                                 | 85% → 4%   | 肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合については、教職員が69.1%（昨年度78.0%）、保護者が76.5%（73.3%）生徒が85.0%（80.6%）と、保護者・生徒からは昨年度よりも高い数値が得られた。生徒は、実際にオープンキャンパス・1日総合大学等に参加する際、各自が目的をきちんと持ち、その成果が得られた結果が反映されたものと考えられる。しかし、教職員の肯定的意見が昨年度より10%近く下がっており、今年度新たに取り組んだ東北大学のオープンキャンパスへの全員参加の目的意識を教員側に伝えきれなかった点に問題があったと考えられる。 | 生徒の多くは総合学習の各行事の意義を理解し、積極的に取り組んでいる様子が伺える。今後は、3年間を見通した進路行事の精選と内容の工夫・改善に努力する必要がある。また、担任による面談の充実化、生徒が自主的に進路選択ができるような力を身に付けさせたい。保護者に対しては、できる限り意見や要望を取り入れるとともに、総合学習で行っている行事の内容や意義を十分理解していただくため、保護者や地域への情報の発信を怠らないように注意する。また教職員と生徒が目的意識を共有できるように3年間のシラバスを作成し、身に付ける力を意識できるようにする。 |
|  | 保護者                                | 77% → 4%   |  |  |
|  | 教職員                                | 69% ↓ -9%  |  |  |
| ⑰ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。                    | 生徒                                 | 85% → 7%   | 総計で良好ととらえている割合89.3%となっており、校内美化・清掃についてはまずまずの評価をいただいた。細目は教職員・肯定93%、保護者・肯定90%、生徒85%であり、昨年比へ、教職員・保護者・生徒とも肯定のポイントはやや上がっている。特に教職員の肯定的意見は昨年比へ増えている。ポイントが上がった理由としては、先生方の指導の徹底によるところが大きいと思われる。また、生徒との認識の差が8%であるがその差を埋められるように工夫する必要があるように思われる。昨年度末、業者にトイレ清掃をお願いしたことも評価が上がった要因とも思われる。                   | 生徒、保護者、教職員全てで肯定的な声が増えたのは良いことである。分担等のアンバランスなど、進める上での難しさがあり、先生方にはご苦労をおかけしているが、通常清掃の徹底が重要である。清掃の時間全員で取り組んでいきたい。また、校舎内外の老朽化により掃除をしてもきれいににならないなどの声もあがっている。今年度もトイレ清掃に業者が入るが、予算等がクリアできるのであれば教室・廊下・特別教室等にも業者清掃を入れてもらえれば良いのではないかとと思う。   |
|  | 保護者                                | 90% → 2%   |  |  |
|  | 教職員                                | 93% ↑ 14%  |  |  |
| ⑱ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能の充実が図られている。 | 生徒                                 | 68% → 6%   | 肯定的意見の「よくできている」「大体できている」の割合は、教職員58.8%、保護者70.2%、生徒67.7%となっており、昨年度よりも若干上がっている。しかし、教職員の肯定的意見は低く、41.2%は図書館の役割が不十分という実態もあるため、先生方が求めているものと図書視聴覚部の意識にずれが生じていると考えられる。  | 図書館が行える役割の紹介や、学習に有効な資料の収集などを広く先生方に周知していく必要がある。特に、プロジェクターなど授業に活用できる機器の提供整備は、変化する授業形態に対応するためには必須となる。また、いかに読書の機会を生徒に持たせるかも、大きな課題である。授業だけでなく、部活動の観点など生徒の生活全般を通して、先生方の協力をいただきながら読書活動を推進していきたい。  |
|  | 保護者                                | 70% → 2%   |  |  |
|  | 教職員                                | 59% → 0%   |  |  |
| ⑲ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。               | 生徒                                 | 85% → 5%   | 肯定的意見が生徒85%、保護者87%、教職員90%とおおむね取り組みは評価されている。昨年度と比較すると肯定的意見が教員が3%減少しているのに対し、生徒5%、保護者4%とわずかに増加している。生徒の健康の保持増進は先生方の日頃のご指導によるところが大きく、各クラスや部活動で、きめ細やかに配慮されているものと考えられる。   | 保護者からの自由記述欄に、子供の様子を知る上でも積極的に情報発信してほしいという意見があった。保健だより等で定期的な情報発信はしているが、掲示物の充実、行事等のお知らせ等により積極的に情報や取り組みを発信するよう努めたい。  |
|  | 保護者                                | 87% → 4%   |  |  |
|  | 教職員                                | 90% ↓ -3%  |  |  |
| ⑳ 交通安全指導の強化と事故防止に取り組んでいる。                  | 生徒                                 | 89% → 5%   | 良好と回答した率が全体に上がっている。昨年度末に大きな事故があったことで、学校前の坂を、自転車を下校することとした強い指導の印象が大きいように考えられる。この指導に否定的な意見を寄せた生徒もいるが、たいていはお互い気をつけながら下校しており、休日もきちんと自転車を押している姿が見られる。そのほか、交通安全委員による啓発運動や、先生方の立ち番指導など、日頃からの小さな指導の積み重ねが効果を上げているものと考えられる。  | 昨年度と比較すると、今年度起きた事故の数は減っていないのが現状である。事故は他人事と捉えている生徒が多いのも事実であり、さらに本質的なところを理解させるような指導の工夫が必要である。今後も地道に呼びかけや立ち番指導などを継続していく。生徒指導サポーターとの連携もさらに密に行っていく。   |
|  | 保護者                                | 92% → 9%   |  |  |
|  | 教職員                                | 97% ↑ 16%  |  |  |
| ㉑ PTAや同窓会活動の充実に努めている。                      | 生徒                                 | —          | PTAや同窓会活動の充実に努めているの質問項目について、「よく出来ている」「大体出来ている」の割合は、保護者・教職員ともに8割を超えている。PTAや同窓会活動について、行事の紹介や参加の呼びかけを行っていることが、ある程度評価されている。一方で、「あまり出来ない」「出来ない」と評価する割合が2割近くになっているのは、PTA行事等に参加する一般会員の数が少ないことが原因になっているのではないかと分析する。  | PTA総会をはじめPTAの行事に参加者が増加するように、内容の充実に努めると共に、広報活動を行っていく必要がある。特にPTA総会については、参加者が増えるように、検討していく。また環境整備奉仕活動、文化祭のPTA休憩所についても、一般会員の参加がさらに増加するように、本部役員・年次PTAの協力をお願いしながら運営していきたい。   |
|  | 保護者                                | 83% —      |  |  |
|  | 教職員                                | 84% —      |  |  |

実現度調査の分析と改善策【1年次】

| 実現度調査 質問項目   | 良好ととらえている割合<br>「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比      | 分析  | 改善策   |
|--|------------------------------------|-----------|---|---|
| ① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。 | 生徒                                 | 84% → 1%  | 「よく出来ている」、「大体出来ている」の肯定的意見が生徒・保護者ともに84%と高かった。今年度は、自分の進路先について考えるためではなく、学問・研究の最先端の世界を知るための体験学習であったが、一定の理解と成果を得ることができたものと言える。一方で否定的意見の割合が、生徒・保護者ともに16%強あり、体験学習の目的が十分に深められなかったためと考えられる。  | 今年度の体験学習は今までは異なり、生徒の知らない世界を体験することで進路をより広い視野で考えることができるようにとの目的で実施された。しかし、我々教員側を含め、なかなかその意義を深めることができず、以前のように進路志望先のオープンキャンパスへの参加の方が良かったのではないかと意見も少なくなかった。今年度の形式で次年度も続けるのであれば、十分な準備をして、その意義を生徒・保護者に説明していく必要があると思われる。 |
|  | 保護者                                | 84% → 2%  |   |   |
| ② 継続的な週末課題等の実施により、家庭学習の習慣化を図っている。                              | 生徒                                 | 84% ↓ -1% | 肯定的意見が生徒84%、保護者86%と高い。本年次は、家庭学習時間が他年次の同時期に比して多く、週末課題が家庭学習の習慣化に役立っていることがうかがえる。しかしながら、週末課題を「こなす」ことが学習であると考え、解答を写して提出しただけで学習したつもりになっている生徒が多く、本当の学力が身につけていない。教員のアンケートでもこの点への懸念が多く寄せられた。 | 学力向上は、年次だけで解決できるものではなく、学校全体で考えるべきものである。部活動中心の学校生活を送る生徒が多く、このこと自体は本校の特色として維持されるべきであるが、一日24時間しかない中でどのように生活時間を割り振るかまで踏み込んだ指導が必要なのかも知れない。また、週末課題については、その与え方（学習の質）について検討する必要があるかも知れない。                               |
|  | 保護者                                | 86% ↑ 19% |   |   |

実現度調査の分析と改善策【2年次】

| 実現度調査 質問項目  | 良好ととらえている割合<br>「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比      | 分析  | 改善策   |
|---|------------------------------------|-----------|---|---|
| ① 一日総合大学をとおして、実際の大学等の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。 | 生徒                                 | 88% → 2%  | 生徒の88%が肯定的意見であった。また、行事直後のアンケートでは「進路の参考になった」という回答が90%にのぼり、多くの生徒にとって進路選択を考える契機となったようだ。<br>一方、保護者回答では生徒よりも6ポイント低かったが、これは、対象が生徒であったため、開催を知らなかった保護者や午前中という設定時間への難しさからきているのではないかとと思われる。 | 90分の講義は長く感じるかも知れないが、かえって上級学校の雰囲気を知る貴重な経験となっている。今後の課題は、生徒が興味・関心を持つ分野・内容の講義をいかに多く設定できるかということであろう。<br>また、保護者への開催通知や、見学・聴講案内を出すことも考えていく必要がある。 |
|   | 保護者                                | 82% → 9%  |   |   |
| ② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題と家庭学習時間調査の実施が継続的に行われている。        | 生徒                                 | 85% ↓ -1% | 肯定的意見が、生徒85%・保護者82%と共に高い。大部分の生徒が家庭で週末課題をやるのが勉強だと思ひ、保護者はそれでは足りないと感じているようである。<br>また、今回の結果には出ていないが、年次の教員も家庭学習が足りないと感じており、生徒の認識との差も気になる。  | 習慣化はされてきたようであるが、まだ「やらされている」という受け身の状態である。主体的に取り組む姿勢を養わせる方策を検討したい。<br>「課題」や「学習時間調査」は、次年度も継続して実施していき、その取り組み状況や提出状況は機会あるごとに通知していきたい。          |
|   | 保護者                                | 82% ↑ 11% |   |   |

実現度調査の分析と改善策【3年次】

| 実現度調査 質問項目  | 良好ととらえている割合<br>「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比      | 分析   | 改善策   |
|---|------------------------------------|-----------|--|---|
| ① 放課後の課外や夏季休業中の学習会などを計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を確立させる指導が行われている。 | 生徒                                 | 92% ↑ 11% | 肯定的意見が生徒で92%、保護者で87%であり、特に生徒は前年比11%高くなった。数値的には実現度は高いと言えるが、これは部活動を引退した後の学習状況を表していると考えられる。実際には、進路が決定するまでは数値どおりであっても、進路決定後も学習習慣がきちんと継続しているとは言い難いところもある。 | 基本的な学習習慣は1年生の時に確立させるものであって、3年生になって急に確立できるものではない。ただし、本校では部活動の比重が高いこともあってか、学習習慣の確立が遅い生徒が目につくのも事実である。入学時より部活動と学習の両立をどのようにするかの指導を体系的に行う必要がある。                       |
|   | 保護者                                | 87% → 8%  |  |   |
| ② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。   | 生徒                                 | 87% → 9%  | 肯定的意見が生徒で87%、保護者で85%とほぼ同程度であり、前年と比較してどちらとも9%程度上昇している。3年次では進路別のオリエンテーションなどを実施し、個々の進路に応じた指導を継続して行ってきたが、なお一層よりよい指導のあり方を模索していく必要がある。                     | 大学の志望校がなかなか定まらない生徒が少なくなく、また、学力と志望校のミスマッチがみられる生徒もいる。生徒一人ひとりに対して、的確なデータの提供ときめ細かな指導をさらに徹底していく必要がある。さらに、三者面談は例年1回であるが、複数回の面談を要する保護者の方もおり、状況に応じて面談を複数回行うことも必要かもしれない。 |
|   | 保護者                                | 85% → 9%  |  |   |